

— 令和 3 年度 —

高知県公立高等学校入学者選抜における
学力検査の結果分析

令和 3 年 6 月

高 知 県 教 育 委 員 会

目 次

令和3年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ	1
I 令和3年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要	2
II 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の実施結果	6
1 学力検査出題の方針	
2 学力検査結果の全体的な状況	
III 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況	10
国語	10 - 11
社会	12 - 13
数学	14 - 16
理科	17 - 19
英語	20 - 21

令和3年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ

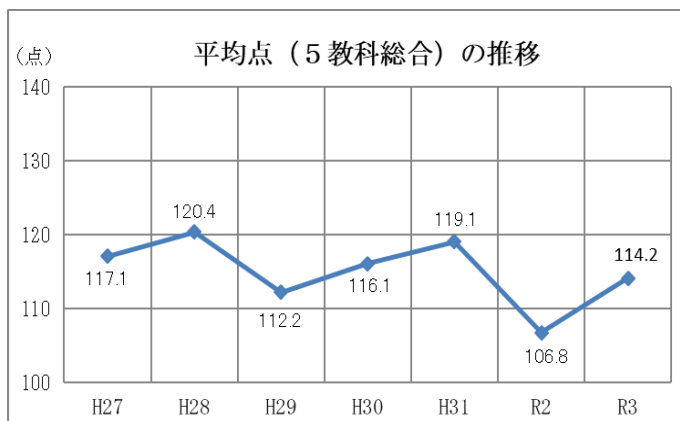
(A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜)

【Ⅰ】入学者選抜の概要

受検者数・合格率の推移

	受検者数	合格率
平成27年度	4,409名	90.4%
平成28年度	4,434名	89.4%
平成29年度	4,349名	91.2%
平成30年度	4,124名	92.1%
平成31年度	4,010名	93.0%
令和2年度	3,836名	92.4%
令和3年度	3,632名	92.4%

【Ⅱ】学力検査の実施結果



【Ⅲ】学力検査の教科別状況

結果の分析	
総合	5教科総合の平均点は114.2点で、昨年度より7.4点上がった。200点以上の受検者数は微増し、74点以下の受検者数は減少した。各教科ともに、基礎的・基本的な知識・技能については一定の定着がみとめられるが、思考力・判断力・表現力等については課題がある。特に、根拠に基づいて論理的に思考する力をみる問いや、事象や概念を的確に説明したり、与えられた条件のもとで他者に分かりやすく伝えたりする力をみる記述式の問題等は正答率が低い。
国語	平均点は22.6点で、昨年度より2.2点上がった。言葉の特徴やきまり、漢字等における基礎的事項の定着や、社会生活において必要な語彙の習熟が十分とは言えない。また、一定の分量の文章を展開に即して、対比の関係などに着目しながら内容を整理して正確に読み取り、条件に合わせて適切に書き表すことについて課題がある。
社会	平均点は24.9点で、昨年度より5.5点上がった。基本的事項については一定の定着がうかがえるが、全分野を通して、社会的事象の内容や理由を適切に表現する力、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて総合的に思考・判断・表現する力等に課題がある。歴史的分野では、歴史的事象のつながりを捉える力が十分ではない。
数学	平均点は21.1点で、昨年度より2.1点上がった。「数と式」については、基礎的・基本的事項は一定の力が付いていると思われるが、十分とは言えない。「図形」、「関数」、「資料の活用」についてはまだ課題がみられる。また、各領域とも、思考力・判断力・表現力等を問う記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題がある。
理科	平均点は22.0点で、昨年度より1.3点下がった。「第1分野」・「第2分野」とともに、基礎的・基本的な科学用語については一定の定着がうかがえるが、観察・実験に関する基本操作、実験結果をもとに考察して図やグラフで表したり、数式を立てて計算したり、科学的な事象が発生するしくみを言葉で表現したりする力に課題がみられる。
英語	平均点は23.6点で、昨年度より1.1点下がった。聞いたり読んだりして概要や要点をつかむことについては一定の力がみとめられるが、基本的な文法事項の定着や、場面に応じて適切に表現することについては課題がある。また、聞いたり読んだりしたことに対して自分の考えを英語で伝えるなど、技能を統合的に活用する力を問う問題は全体的に正答率が低い。

【Ⅳ】今後の学習指導の重点項目

各教科等における基礎的・基本的な知識・技能を、自身の体験や実社会のできごとなどと結び付けながら活用し、課題を解決する学習活動を重視して、思考力・判断力・表現力等を育む。

I 令和3年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要

1 全体

	入学定員	合格者総数
全 日 制	5,090	3,655
多 部 制	200	86
定 時 制	560	40
合 計	5,850	3,781

(併設中学校からの進学者を含む。)

○定員充足率 (%)		前年比 (ポイント)
全日制の課程	71.8	-0.1
多部制の課程	43.0	-4.0
定時制の課程	7.1	+0.1

2 (1)A日程

	A日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	5,090	3,476	3,209
多 部 制	120	78	70
合 計	5,210	3,554	3,279

○合格率 (%)		前年比 (ポイント)	○不合格者数 (人)		前年比 (人)
全日制の課程	92.3	-0.1	全日制の課程	267	-13
多部制の課程	89.7	-1.1	多部制の課程	8	+1

(2)連携型特別選抜

	受検者数	合格者数
全 日 制	78	77

※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。

3 B日程

	B日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	1,594	191	160
多 部 制	130	15	12
定 時 制	560	33	31
合 計	2,284	239	203

○合格率 (%)		前年比 (ポイント)	○不合格者数 (人)		前年比 (人)
全日制の課程	83.8	-0.8	全日制の課程	31	0
多部制の課程	80.0	+8.6	多部制の課程	3	-5
定時制の課程	93.9	+8.6	定時制の課程	2	-3

4 C日程

	C日程定員	受検者数	合格者数
多 部 制	76	5	4
定 時 制	529	10	9
合 計	605	15	13

5 定員内不合格(全日制のみ)

	定員内不合格者数		
	A日程	連携型特別選抜	B日程
令和3年度	100	1	32

令和3年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

No. 1 全日制

学 校 名	学 科 (科) 名	入 学 定 員	A日程			B日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数	
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数				合 格 者 数
室戸	総合	80	23	22	21	59	1	1	1	22	58	22
安芸	普通	120 (78)	31	31	31	45	2	2	2	77	43	77
安芸桜ヶ丘	工業（環建）	20	2	2	2	18	0	0	0	2	18	2
	工業	20	10	10	10	10	0	0	0	10	10	10
	商業（情ピ）	40	13	13	13	27	1	0	0	13	27	13
城山	普通	80	24	23	20	60	12	12	9	29	51	29
山田	普通	80	58	56	49	31	9	9	10	59	21	59
	探究（グローバル）	80	16	15	15	65	6	6	3	18	62	18
	商業（ピ探）	40	32	32	28	12	1	1	0	28	12	28
嶺北	普通	80	11	11	11	48	1	1	0	32	48	32
高知農業	農業（農総）	40	37	37	35	5	2	2	2	37	3	37
	農業（畜総）	40	24	24	23	17	1	1	1	24	16	24
	農業（森総）	40	16	16	15	25	3	2	2	17	23	17
	農業（環土）	40	17	17	14	26	3	3	3	17	23	17
	農業（食ピ）	40	28	28	28	12	3	2	2	30	10	30
高知東工業	農業（生総）	40	32	32	31	9	1	1	1	32	8	32
	工業（機械）	40	33	32	31	9	1	1	1	32	8	32
	工業（機械シス）	40	18	18	17	23	7	7	3	20	20	20
	工業（電子）	40	18	17	14	26	5	4	4	18	22	18
岡豊	工業（電機）	40	20	20	19	21	1	1	1	20	20	20
	普通	240	248	248	240	なし				240	0	240
	普通（芸術コース）	40	28	28	26	14	0	0	0	26	14	26
高知東	普通（体育コース）	40	36	36	29	11	7	7	6	35	5	35
	総合	200	221	221	200	なし				200	0	199
高知工業	看護（看護）	30	25	25	25	5	1	1	1	26	4	26
	工業（機械）	40	48	47	40	なし				40	0	40
	工業（電気）	40	37	37	38	2	2	2	2	40	0	40
	工業（情技）	40	48	44	40	なし				40	0	40
	工業（工化）	40	26	26	38	2	2	2	2	40	0	40
	工業（土木）	40	49	46	40	なし				40	0	40
	工業（建築）	40	57	52	40	なし				40	0	40
	工業（総デ）	40	44	44	40	なし				40	0	40
高知追手前	普通	280	249	246	244	36	3	3	1	245	35	245
吾北	普通	40	7	7	6	34	2	2	1	7	33	7
高知丸の内	普通	140	192	191	140	なし				140	0	139
	チャレンジA	10	9	9	8					8	2	8
	音楽（音楽）	30	17	17	18	12	2	2	1	19	11	19
高知小津	普通	240	272	269	240	なし				240	0	239
高知国際	理数（理数）	40	26	23	34	6	1	1	1	35	5	35
	普通	200 (150)	162	158	150	なし				200	0	200
	国際（グローバル）	80 (21)	16	16	17	4	3	3	2	78	2	78
	D P	[20] (若干名)	[2]	[2]	[2]	[若干名]	[1]	[1]	[0]	[2]		
伊野商業	商業（キャリア）	160	86	84	77	83	42	39	35	112	48	112
春野	総合	160	117	115	103	57	18	18	17	120	40	120
高岡	普通	80	36	33	30	50	10	10	8	38	42	38
高知海洋	水産（海洋）	80	45	45	39	41	9	9	6	45	35	45
	船舶職員養成課程	[10]	[5]	[5]	[2]	[8]	[0]	[0]	[0]	[2]	[8]	[2]
須崎総合	普通	120	81	81	79	41	2	2	2	81	39	81
	工業（機械系）	20	20	20	17	3	1	1	1	18	2	18
	工業	20	7	7	6	14	0	0	0	6	14	6
	工業（電情系）	20	6	6	5	15	0	0	0	5	15	5
	工業	20	8	8	7	13	0	0	0	7	13	7
	工業（シ工系）	20	1	1	1	19	1	1	1	2	18	2
	工業	20	8	8	8	12	0	0	0	8	12	8
佐川	普通	80	29	29	28	52	8	8	8	36	44	36
窪川	普通	80	29	29	24	56	6	6	5	29	51	29
構原	普通	80	20	20	18	43	3	3	3	40	40	40
四万十	普通	40	3	3	2	29	1	1	0	11	29	11
	普通（自環コース）	40	6	6	6	31	0	0	0	9	31	9

- (注1) 安芸、高知国際、中村の()内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。
(注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数。
(注3) 嶺北、構原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。
(注4) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。

No. 2 全日制

学 校 名	学 科 (科) 名	入 学 定 員	A日程			B日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数	
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数				合 格 者 数
大 方	普 通	80	33	33	30	50	7	7	5	35	45	35
幡多農業	農 業 (園シス)	40	34	34	33	7	0	0	0	33	7	33
	農 業 (アグリ)	40	25	25	25	15	0	0	0	25	15	25
	農 業 (グリーン)	40	20	20	18	22	0	0	0	18	22	18
	農 業 (コーディネート)	40	28	28	28	12	0	0	0	28	12	28
中 村	普 通	200 (144)	99	98	96	48	1	1	1	153	47	153
	西土佐 普 通	40	7	7	7	33	0	0	0	7	33	7
宿毛工業	工 業 (機械) <input type="checkbox"/> 機械	20	9	9	9	11	0	0	0	9	11	9
	工 業 <input type="checkbox"/> 自車	20	10	10	9	11	0	0	0	9	11	9
	工 業 (建設) <input type="checkbox"/> 土木	20	20	20	20	なし				20	0	20
	工 業 <input type="checkbox"/> 建築	20	21	21	21	なし				21	0	21
	工 業 (電気)	40	14	14	13	27	0	0	0	13	27	13
	工 業 (情技)	40	39	38	38	2	0	0	0	38	2	38
宿 毛	総 合	120	54	54	51	69	5	5	5	56	64	56
清 水	普 通	80	1	1	1	54	1	1	1	27	53	27
県 立 計		4810 (4601)	3196	3153	2929	1594	198	191	160	3375	1436	3372

高知商業	商 業 (総合マネ)	140	166	165	140	なし				140	0	140
	商 業 (社会マネ)	70	78	78	70	なし				70	0	70
	商 業 (情報マネ)	35	45	44	35	なし				35	0	35
	商 業 (スポマネ)	35	36	36	35	なし				35	0	35
市 立 計		280	325	323	280	0	0	0	0	280	0	280

合 計		5090 (4881)	3521	3476	3209	1594	198	191	160	3655	1436	3652
-----	--	-------------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------

(注1) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。

(注2) B日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

令和3年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者等の状況 (学校別)

学 校 名	学 科 (科) 名	入 学 定 員	特別選抜			
			特 別 選 抜 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数
嶺 北	普 通	80	入学定員内	22	22	21
構 原	普 通	80	入学定員内	20	19	19
四 万 十	普 通	40	入学定員内	9	9	9
	普 通 (自環コース)	40	入学定員内	3	3	3
清 水	普 通	80	入学定員内	25	25	25
合 計		320		79	78	77

令和3年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

多部制単位制

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	A日程			B日程			C日程			合格者総数	空席	入学許可者数 [成人]		
			志願者数	受検者数	合格者数	B日程定員 [成人]	志願者数 [成人]	受検者数 [成人]	合格者数 [成人]	C日程定員 [成人]	志願者数				受検者数	合格者数
中 芸	普通(昼間)	40	17	17	14	26	2	2	1				15	25	15	
	普通(夜間)	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
高知北	普通(昼間)	80	63	61	56	24	9	9	7				63	17	63	
	普通(夜間)	40 [4]				40 [4]	5 [0]	3 [0]	3 [0]	37	5	5	4	7	33	7 [0]
合 計		200 [8]	80	78	70	130 [8]	17 [0]	15 [0]	12 [0]	76	5	5	4	86	114	86 [0]

(注1) 成人の [] は内数

定時制

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	A日程			B日程			C日程			合格者総数	空席	入学許可者数 [成人]		
			志願者数	受検者数	合格者数	B日程定員 [成人]	志願者数 [成人]	受検者数 [成人]	合格者数 [成人]	C日程定員 [成人]	志願者数				受検者数	合格者数
室 戸	普通	40 [4]				40 [4]	5 [1]	5 [1]	5 [1]	35	0	0	0	5	35	5 [1]
山 田	普通	40 [4]				40 [4]	5 [0]	5 [0]	5 [0]	35	1	1	1	6	34	6 [0]
高知東工業	工業(機械)	40 [4]				40 [4]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	0	0	0	2	38	2 [0]
高知工業	工業(機械)	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
	工業(電気)	40 [20]				40 [20]	2 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
	工業(土木)	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	0 [0]	40	1	1	1	1	39	1 [0]
	工業(建築)	40 [20]				40 [20]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	1	1	0	2	38	2 [0]
高 岡	普通	40 [8]				40 [8]	5 [0]	5 [0]	5 [0]	35	0	0	0	5	35	5 [0]
須崎総合	普通	40 [4]				40 [4]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	1	1	1	3	37	3 [0]
佐 川	普通	40 [8]				40 [8]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	0	0	0	2	38	2 [0]
大 方	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	2	2	2	3	37	3 [0]
宿 毛	普通	40 [4]				40 [4]	3 [1]	3 [1]	2 [1]	38	0	0	0	2	38	2 [1]
清 水	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	0	0	0	1	39	1 [0]
合 計		520 [124]				520 [124]	32 [2]	31 [2]	29 [2]	491	6	6	5	34	486	34 [2]
高知商業	商業(商業)	40 [4]				40 [4]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	4	4	4	6	34	6 [0]
合 計		560 [128]				560 [128]	34 [2]	33 [2]	31 [2]	529	10	10	9	40	520	40 [2]

(注1) 成人の [] は内数

Ⅱ 学力検査(A日程及び連携型特別選抜)の実施結果

1 学力検査出題の方針

中学校学習指導要領にそって、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、学習や実生活の場面において、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力をみるものとした。

- 1 中学校における日常の学習活動に基づく内容とした。
- 2 各教科においては、一部の領域に偏らないようにした。
- 3 検査時間等を考慮し、適切な問題量とした。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大による不測の事態に備え、社会・数学・理科の出題範囲について、以下のとおり削減した。

社会	公民的分野のうち『私たちと国際社会の諸課題』
数学	『資料の活用（標本調査）』
理科	第1分野『科学技術と人間』 （ただし、「ア エネルギー (7) 様々なエネルギーとその変換」は出題範囲に含む）
	第2分野『自然と人間』 （ただし、「ア 生物と環境 (7) 自然界のつり合い」は出題範囲に含む）

2 学力検査結果の全体的な状況

(1) 学力検査受検者数等(令和3年3月4日実施分)

学力検査受検者数		
A日程学力検査受検者数	連携型中高一貫教育校に係る特別選抜受検者数	計
3,554人 (3,741人)	78人 (95人)	3,632人 (3,836人)

(注) ()内は令和2年度の受検者数である。

(2) 平均点(各教科とも50点満点)

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総合
平均点	22.6 (20.4)	24.9 (19.4)	21.1 (19.0)	22.0 (23.3)	23.6 (24.7)	114.2 (106.8)

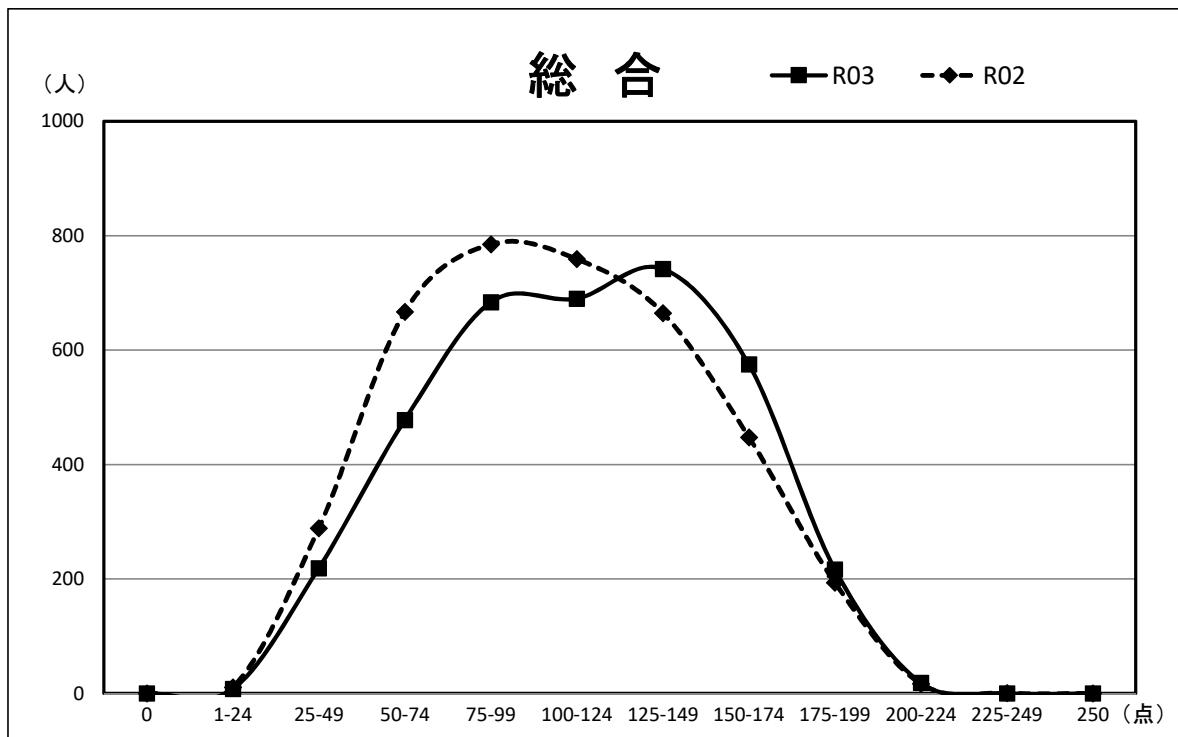
(注) ()内は令和2年度の値である。

(3)個人別総合得点度数分布表(250点満点)

得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数
0～4	0 (0)	65～69	84 (148)	130～134	152 (137)	190～194	30 (29)
5～9	0 (0)	70～74	105 (145)	135～139	142 (111)	195～199	26 (21)
10～14	0 (0)	75～79	122 (150)	140～144	136 (144)	200～204	8 (8)
15～19	1 (4)	80～84	134 (141)	145～149	179 (132)	205～209	5 (3)
20～24	7 (7)	85～89	136 (153)	150～154	124 (121)	210～214	5 (5)
25～29	16 (24)	90～94	145 (174)	155～159	119 (91)	215～219	0 (1)
30～34	43 (40)	95～99	147 (167)	160～164	119 (92)	220～224	1 (0)
35～39	45 (66)	100～104	138 (168)	165～169	116 (90)	225～229	0 (1)
40～44	48 (76)	105～109	146 (129)	170～174	97 (54)	230～234	0 (0)
45～49	67 (83)	110～114	136 (154)	175～179	70 (64)	235～239	0 (0)
50～54	79 (106)	115～119	119 (138)	180～184	58 (44)	240～244	0 (0)
55～59	95 (129)	120～124	151 (170)	185～189	33 (36)	245～250	0 (0)
60～64	115 (139)	125～129	133 (141)				

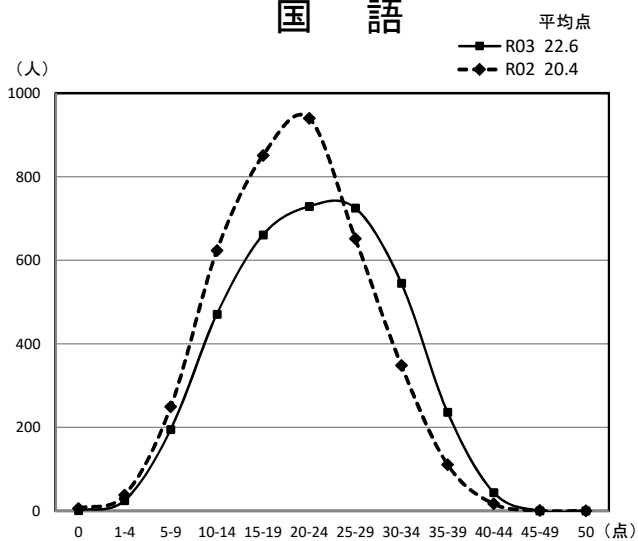
(注) ()内は令和2年度の値である。

平均点 114.2 (昨年度106.8)

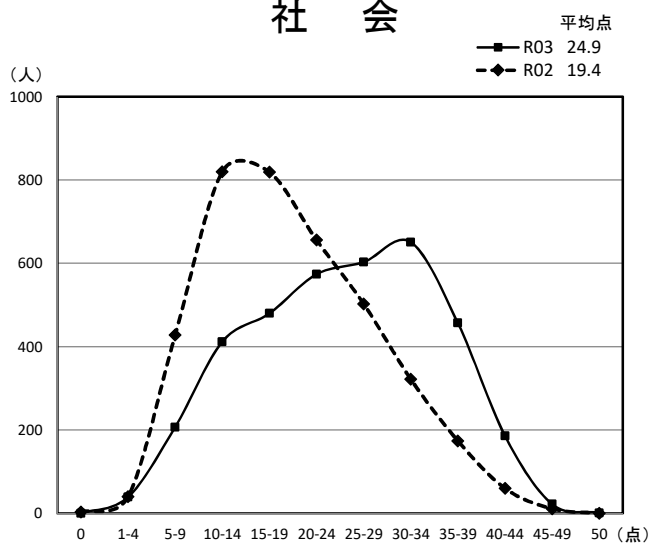


(4)教科別得点度数グラフ

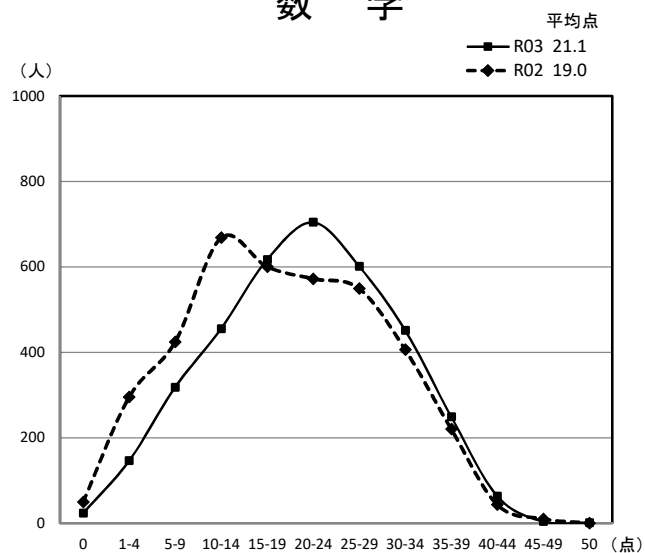
国 語



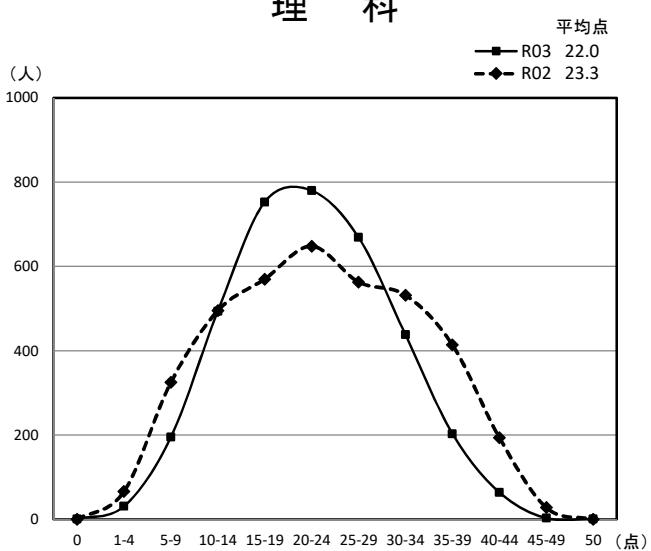
社 会



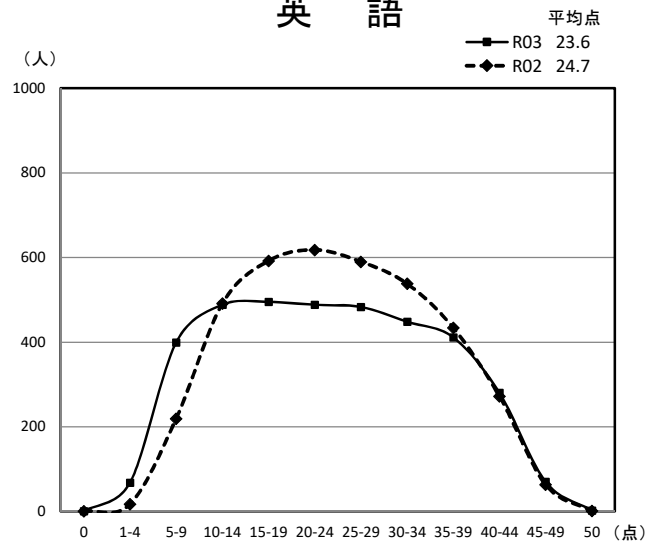
数 学



理 科



英 語



(5) 過年度比較

平均点の推移(各教科とも50点満点)

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	総 合
平成27年度	20.2	25.6	23.2	20.4	27.7	117.1
平成28年度	25.1	26.9	18.5	24.4	25.4	120.4
平成29年度	22.6	25.1	17.9	19.9	26.8	112.2
平成30年度	20.4	24.4	21.8	23.7	25.8	116.1
平成31年度	22.6	25.1	18.5	25.7	27.1	119.1
令和2年度	20.4	19.4	19.0	23.3	24.7	106.8
令和3年度	22.6	24.9	21.1	22.0	23.6	114.2
前年比増減	+2.2	+5.5	+2.1	-1.3	-1.1	+7.4

満点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
平成27年度	0	2	2	0	17	21
平成28年度	0	7	0	0	11	18
平成29年度	0	6	0	1	12	19
平成30年度	0	4	2	7	3	16
平成31年度	0	5	0	1	6	12
令和2年度	0	0	0	0	1	1
令和3年度	0	1	1	1	2	5
前年比増減	±0	+1	+1	+1	+1	+4

0点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
平成27年度	0	1	51	3	1	56
平成28年度	2	4	79	1	2	88
平成29年度	1	1	16	11	0	29
平成30年度	2	0	41	3	3	49
平成31年度	2	2	56	2	1	63
令和2年度	6	3	49	0	0	58
令和3年度	1	0	23	1	0	25
前年比増減	-5	-3	-26	+1	±0	-33

250点満点で200点以上と74点以下の人数

()内は%

	200点以上	74点以下
平成27年度	106 (2.40)	905 (20.53)
平成28年度	70 (1.58)	716 (16.15)
平成29年度	51 (1.17)	935 (21.50)
平成30年度	92 (2.23)	852 (20.66)
平成31年度	51 (1.27)	699 (17.43)
令和2年度	18 (0.47)	967 (25.21)
令和3年度	19 (0.52)	705 (19.41)
前年比増減	+1	-262

Ⅲ 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況

国語

1 出題のねらい

「書くこと」、「読むこと」の2領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について、基礎的・基本的な知識・理解と、国語を適切に表現し正確に理解する力をみることをねらいとした。

- (1) 「書くこと」については、文章の展開に即して内容をとらえたり、文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで、目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、文章の展開に即して内容を正確に理解する力をみるものとした。
- (3) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、漢字の読み書き、書写、表現の技法、文法の基礎的な事項や古文の仮名遣いなどについての力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は22.6点で、昨年度より2.2点上がった。言葉の特徴やきまり、漢字等における基礎的事項の定着や、社会生活において必要な語彙の習熟が十分とは言えない。また、一定の分量の文章を展開に即して、対比の関係などに着目しながら内容を整理して正確に読み取り、条件に合わせて適切に書き表すことについて課題がある。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	22.6	20.4	22.6	20.4	22.6	25.1	20.2

(2) 正答率の推移

年度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
言葉の特徴やきまり・漢字・書写・表現の技法	56.6	49.9	56.9	53.5	55.9	71.8	54.0
現代文	24.1	26.4	34.4	23.8	31.4	30.2	26.7
古典	44.4	44.6	44.2	38.8	40.3	57.0	45.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

☞① 基本的な文法事項に関する知識を定着させること。【一(五)1, 2】

言葉の単位（単語に区切ること）や単語の活用（動詞の活用）など、言葉の特徴やきまりに関する事項の正答率が低い。言葉への自覚を高め、言語感覚を豊かにするためには、基本的な文法事項に関する知識を身に付けておくことが重要な要素の一つとなる。既習事項を繰り返し学習の中に取り入れ、確実に定着させたい。

☞② 社会生活において必要な語彙の意味や使い方に習熟させること。【二(一)】

文章中の言葉を用いて空欄補充をする問題における正答率が低い。誤答の約5割を占めていた「自律」は、文章中におけるキーワードではあるものの、空欄の後に続く「の所在」という表現とはつながり難い。授業の中で、社会生活に必要な語彙がどのような使われ方をするのか、文脈に合った言葉の選び方や使い方も意識させたい。

☞③ 対比の関係などに着目しながら文章の内容を読み取る姿勢を身に付けさせること。【三(二)】

文章中で提示された二通りの「読み方」を整理して読み取り、問題の条件に合わせて、肯定的に捉えられている方の「読み方」を正しく記述できている解答が少ない。説明的文章では、二つのものを対比して取り上げているものが多い。文章の展開に即して、対比の関係などに着目しながら内容を整理して正確に読み取る姿勢を身に付けさせたい。

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率	
一	(一)	1	れいこう	18.6	76.5	4.9
		2	もよお(す)	59.7	36.4	3.9
	(二)	1	痛快	45.7	39.8	14.5
		2	預(ける)	61.0	33.8	5.2
	(三)	13(画)	81.4	18.3	0.3	
	(四)	ア	72.4	27.6	0	
	(五)	1	4	25.6	74.4	0
		2	イ	32.6	67.4	0
		3	ア	79.6	20.1	0.3
	(六)	1	エ	87.3	12.7	0
2		(例) 体育祭ではその成果を発揮した。	60.7	27.9	4.4	
			部分点 7.0			
3	Ｃ	54.8	45.2	0		
二	(一)	責任	10.8	87.9	1.3	
	(二)	エ	70.5	29.5	0	
	(三)	(例) 彼女の発言によって、私たち日本人にとっては当たり前であった相互依存が、「相互依存を許してやる能力」という価値があるものだという事に気づかされたから。	4.4	61.0	3.3	
			部分点 31.3			
(四)	ウ	51.4	47.6	1.0		
三	(一)	(例) 今の社会は情報量が増えどんどん上書きされているために、人々は最新の情報しか見えなくなっているが、一方で忘れるからこそ新しい情報を受け取れるとも言えるということ。	3.4	63.3	3.9	
			部分点 29.4			
(二)	(例) 岡本さんは、じっくり読む読み方を肯定している。岡本さんは中身の深い本は何回読んでも新たな発見があると述べているが、私の読書の経験でも同じことがあったので、私もじっくり読むことを大切にしたいと思う。	3.9	59.7	13.2		
		部分点 23.2				
四	(一)	わきまえぬやからは	62.8	35.4	1.8	
	(二)	イ	53.2	46.3	0.5	
	(三)	息	19.6	77.3	3.1	
	(四)	ウ	41.9	57.9	0.2	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した387人分の答案を対象として算出した。

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、社会的事象について、基礎的・基本的な知識・理解と、資料などに基づいて多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、政治のしくみ、経済のしくみなどについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は 24.9 点で、昨年度より 5.5 点上がった。基本的事項については一定の定着がうかがえるが、全分野を通して、社会的事象の内容や理由を適切に表現する力、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて総合的に思考・判断・表現する力等に課題がある。歴史的分野では、歴史的事象のつながりを捉える力が十分ではない。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	24.9	19.4	25.1	24.4	25.1	26.9	25.6

- (2) 正答率の推移

年 度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
地理的分野	46.2	40.1	48.6	58.1	59.3	65.1	68.9
歴史的分野	43.3	34.9	42.4	50.5	52.7	55.2	42.2
公民的分野	61.6	50.9	55.4	46.4	42.6	46.3	54.3

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

- ☞① 歴史的な事柄や社会的な用語を正確に理解させること。【3】3など

歴史的な事柄や社会的な用語を正確に理解していないため、的確に表現することができていない解答が多くみられた。特徴や特色、因果関係など、学習する際にどのような点に着目して理解すればよいのかを、教科書を踏まえて明確に示し、正確に理解させることが重要である。また、学習したことを適切に表現できるように一層の指導が求められる。

- ☞② 資料等を活用して思考・判断・表現する力を付けさせること。【6】3など

資料から読み取ったことと、すでに習得している知識とを関連付けて、思考・判断し、言葉で表現することに課題がある。図表やグラフなど様々な資料を組み合わせながら、必要な情報を読み取ったり、読み取った情報と自分の知識とを結び付けて表現したりする活動の充実を図ることが大切である。

- ☞③ 歴史的事象のつながりを捉える力を付けさせること。【6】2

歴史的事象のつながりを捉える力が十分ではない。歴史的事象を個別に理解するだけでなく、他の事象との因果関係や関連性にも注意しながら理解することが大切である。課題やテーマに基づいて学習する中で、歴史的事象のつながりを考えたり、習得した知識を活用して時代を大観し表現したりする活動を更に充実させることが必要である。

問 題	正 答	正答率	誤答率	無答率		
1	1	ウ	30.2	69.8	0	
	2	エ	86.0	14.0	0	
	3	(例) 衆議院は任期が短く、解散もあるので、国民の意思を反映しやすいから。	39.3	23.0	6.7	
			部分点 31.0			
	4	(1)	普通選挙	72.6	24.0	3.4
(2)		エ	49.6	50.1	0.3	
2	1	㉠ イ ㉡ ウ ㉢ ア	66.4	33.6	0	
	2	(例) 寒流の親潮と暖流の黒潮がぶつかる潮目(潮境)があるから。	37.7	52.4	6.5	
			部分点 3.4			
	3	ウ	41.3	58.7	0	
	4	(1)	110 m	24.0	73.4	2.6
(2)		750 m	61.2	35.7	3.1	
3	1	イ	71.1	28.7	0.2	
	2	紫式部	69.0	26.9	4.1	
	3	(例) 売ったり質に入れたりして領地を失った御家人に、ただで領地を返させることを定めた法令。	11.6	78.3	7.8	
			部分点 2.3			
	4	ア	64.1	35.9	0	
5	エ	48.6	51.4	0		
4	1	イ	84.8	15.2	0	
	2	(例) 一定の期間のうちであれば、契約を取り消すことができる。	62.3	26.9	4.4	
			部分点 6.4			
	3	(1)	均衡価格	72.6	22.5	4.9
(2)		ア	56.8	42.9	0.3	
5	1	(1)	イ	55.3	44.7	0
		(2)	地中海式農業	50.4	43.1	6.5
		(3)	D	42.9	56.6	0.5
	2	(例) 共通通貨のユーロの導入により、両替が不要になり、国境を越えた人々の移動が活発になった。	27.1	53.3	7.5	
部分点 12.1						
3	ウ	55.3	44.4	0.3		
6	1	㉠, ㉡	40.8	58.7	0.5	
	2	ウ → ア → イ → エ	13.4	86.3	0.3	
	3	(例) 閣僚の大部分が衆議院の第一党である立憲政友会の党员である。	23.5	50.4	16.0	
			部分点 10.1			
	4	エ	58.1	41.9	0	
5	ア	32.8	66.4	0.8		

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した387人分の答案を対象として算出した。

数学

1 出題のねらい

「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の4領域について、基礎的な概念や原理・法則の理解と、それらに基づき、数学的に考察したり、表現したり、処理したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「数と式」では、数の概念についての理解の程度、文字を用いた式を処理したり、文字を用いて式に表現したりする力、目的に応じて式を変形する力をみるものとした。
- (2) 「図形」では、平面図形や空間図形についての理解の程度、見通しをもって論理的に考察し表現する力をみるものとした。
- (3) 「関数」では、グラフの特徴についての理解の程度、関数関係を見いだし表現する力、関数と図形を関連付けて考察する力をみるものとした。
- (4) 「資料の活用」では、代表値についての理解の程度、具体的な事柄について起こり得る場合を順序よく整理して正しく数え上げ、不確定な事象の確率を求める力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は21.1点で、昨年度より2.1点上がった。「数と式」については、基礎的・基本的事項は一定の力が付いていると思われるが、十分とは言えない。「図形」、「関数」、「資料の活用」についてはまだ課題がみられる。また、各領域とも、思考力・判断力・表現力等を問う記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題がある。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	21.1	19.0	18.5	21.8	17.9	18.5	23.2

- (2) 正答率の推移

年 度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
数と式	66.5	54.3	58.3	67.5	43.3	54.6	62.2
図 形	20.5	13.5	14.5	24.7	20.0	21.3	27.4
関 数	31.1	38.5	42.6	56.7	40.6	24.1	34.2
資料の活用	39.5	36.8	37.8	37.4	35.1	43.7	48.9

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 基本的な四則計算や式変形のきまりを定着させること。【1】(1)など

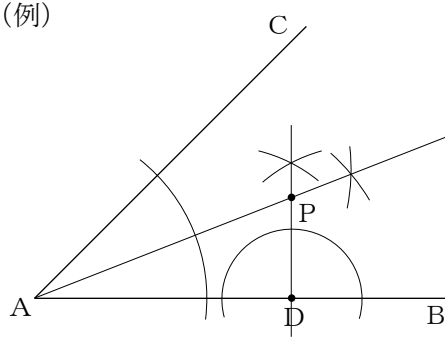
基本的な四則計算や式変形を正しく理解できていないと思われる解答が少なくない。小学校で学習する計算順序のきまり、分配法則や移項、分数の形で表された文字式の約分など、基本的な四則計算のやり方や式を変形するときのきまりは確実に習得させておきたい。

- ☞② 様々な課題解決のために、数学の活用方法を考え、数学の有用性に気付かせること。【2】

具体的な場面における課題を、数学を活用して解決できるようにするために、数量及び数量の関係を条件等から正しく読み取り、文字等に置き換え、思考することが大切である。授業においては、日常的な事象を数学の問題として捉え、文字や式を用いて抽象化したり、図やグラフを用いて視覚化したりすることによって、解決できるように指導することが必要である。

- ☞③ 自分の考えを論理立てて記述できるようにさせること。【5】(3)、【6】(1)

言葉と式を使って説明する問題や相似な図形の証明問題では、与えられた条件から、式や事柄が成り立つ根拠を正しく示すことができていない解答が多い。授業においても、問いに対する自分の考えを、理由も含めて答えさせるなどの取組が求められる。

問 題		正 答		正答率	誤答率	無答率
1	(1)	①	-2	93.0	7.0	0
		②	$\frac{5x-11y}{12}$	76.7	22.5	0.8
		③	$-\frac{a}{2}$	74.2	25.3	0.5
		④	$2\sqrt{2}$	82.4	13.2	4.4
	(2)	$b = 50 - 7a$		71.6	25.8	2.6
	(3)	ア, ウ, エ		33.1	65.9	1.0
	(4)	$x = -1, 6$		50.4	43.4	6.2
	(5)	$a = 3$		43.9	43.9	12.2
	(6)	ウ, ア, イ		33.8	65.9	0.3
	(7)	0.25		38.2	51.2	10.6
(8)	(例)			28.7	50.1	19.9
部分点 1.3						
2	(1)	ウ		67.4	32.6	0
	(2)	あ	$x+y$	61.0	36.2	2.8
		い	4200			
(3)	イ		55.0	44.5	0.5	
3	(1)	$y = \frac{9}{2}$		43.1	43.7	13.2
	(2)	$10 \leq x \leq 15$		19.7	57.8	22.5
	(3)	$x = 4, \frac{92}{5}$		2.6	69.0	28.4
4	(1)	$\frac{1}{5}$		53.2	43.4	3.4
	(2)	$\frac{17}{36}$		27.1	62.3	10.6

(次のページに続く)

問 題	正 答	正答率	誤答率	無答率		
5	(1)	3	71.3	22.2	6.5	
	(2)	$y=x$	7.5	65.1	27.4	
	(3)	<p>(例)</p> <p>$\triangle AOB$は$AO=AB$である二等辺三角形なので、点Aのx座標がmより、底辺OBの長さは$2m$となる。</p> <p>また、点Aは②のグラフ上の点なので、点Aの座標が$(m, \frac{6}{m})$となることから、$\triangle AOB$の高さは$\frac{6}{m}$となる。</p> <p>よって、$\triangle AOB$の面積は</p> $2m \times \frac{6}{m} \times \frac{1}{2} = 6$ <p>である。</p> <p>したがって、mがどんな値であっても、$\triangle AOB$の面積は一定である。</p>	1.6	44.4	53.2	
6	(1)	<p>【証明】(例)</p> <p>$\triangle AEC$と$\triangle DEB$において</p> <p>$\angle ACE, \angle DBE$はそれぞれ\widehat{AE}に対する円周角なので</p> $\angle ACE = \angle DBE \dots\dots\dots \textcircled{1}$ <p>$\angle CAB, \angle DEB$はそれぞれ\widehat{BC}に対する円周角なので</p> $\angle CAB = \angle DEB$ <p>また、$\angle CAB = 45^\circ$なので</p> $\angle DEB = 45^\circ \dots\dots\dots \textcircled{2}$ <p>$\angle AEB$は半円の弧に対する円周角なので</p> $\angle AEB = 90^\circ \dots\dots\dots \textcircled{3}$ <p>②, ③より</p> $\begin{aligned} \angle AEC &= \angle AEB - \angle DEB \\ &= 90^\circ - 45^\circ \\ &= 45^\circ \dots\dots\dots \textcircled{4} \end{aligned}$ <p>②, ④より</p> $\angle AEC = \angle DEB \dots\dots\dots \textcircled{5}$ <p>①, ⑤より</p> <p>2組の角がそれぞれ等しい。</p> <p>したがって $\triangle AEC \sim \triangle DEB$</p>	6.4	42.9	25.6	
			(2)	①		$6\sqrt{2}$ cm
			②	$\frac{27}{4}$ 倍	0.2	71.6

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した387人分の答案を対象として算出した。

理科

1 出題のねらい

「第1分野」、「第2分野」から均等に出題し、自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識・理解と、観察・実験などを通して科学的に考察したり、適切に表現したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「第1分野」については、様々なエネルギーとその変換、状態変化、光の反射・屈折、酸・アルカリとイオンなどについて問うものとした。
- (2) 「第2分野」については、生物の観察、天体の動きと地球の自転・公転、動物の仲間及び生物の変遷と進化、日本の気象などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は22.0点で、昨年度より1.3点下がった。「第1分野」・「第2分野」ともに、基礎的・基本的な科学用語については一定の定着がうかがえるが、観察・実験に関する基本操作、実験結果をもとに考察して図やグラフで表したり、数式を立てて計算したり、科学的な事象が発生するしくみを言葉で表現したりする力に課題がみられる。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	22.0	23.3	25.7	23.7	19.9	24.4	20.4

(2) 正答率の推移

年 度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
第1分野	44.8	37.0	49.0	45.4	37.7	45.6	41.8
第2分野	50.9	61.4	55.3	52.7	47.7	56.3	45.3

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

☞① 観察・実験の手順の基礎・基本を正しく習得させること。【1】3など

観察・実験の技能に関する問題の中に、正答率が非常に低いものがあった。観察及び実験は、理科における探究活動の中核であり、安全かつ確実に観察・実験が行えるよう、代表的な器材・用具の使い方や操作の手順については、繰り返し経験させしっかりと習得させたい。

☞② 物質名と化学式の違いを押さえ、物質の表し方を確実に身に付けさせること。【4】1など

化学式で解答すべきところで物質名を書いたり、物質名やイオン名で解答すべきところで化学式を書いたり、化学式や物質名を正確に書くことができなかつたりした誤答が目立った。物質名や化学式については、正しく覚えることはもちろんだが、その根底にある基本的な規則性やルールについても触れ、理解させるようにしたい。

☞③ 与えられた情報を的確に理解し、条件に応じて表現できるようにさせること。【2】4など

図やグラフによって解答する問題では、与えられた情報を正しく理解し、表現できていない解答が多い。図や表などによって示されている情報を言葉で説明したり、言葉により表現された情報から図や表などをかいたりするなど、情報を様々な形に変換する経験を積ませたい。

☞④ 科学的な事象を言葉で適切に表現できるようにさせること。【4】4、【5】2(2)など

科学的な事象について、そのしくみ、原因、理由等を言葉で説明する問題において、与えられた条件を満たしていない解答や、論旨に矛盾のある解答、全く別の事象について説明している解答が少なくない。5W1Hを意識しながら、主語・目的語・述語等を適切に使用し、第三者に的確に意図が伝わる、科学的に筋が通った文を書く力を身に付けさせたい。

問題		正 答				正答率	誤答率	無答率	
1	1	(1)	X	エ	Y	イ	91.2	8.8	0
		(2)	イ, ア, ウ				63.8	36.2	0
	2	(1)	状態変化				75.2	20.2	4.6
		(2)	イ				71.6	28.2	0.2
		(3)	ウ				60.5	39.5	0
	3	(1)	エ → イ → ウ → ア				19.1	80.4	0.5
		(2)	イ, ウ				27.6	72.4	0
	4	(1)	(例) 円の中心				39.5	56.9	3.6
		(2)	南中高度				91.2	5.7	3.1
		(3)	エ				65.4	34.1	0.5
2	1	ウ				53.2	46.8	0	
	2	ア				15.8	84.2	0	
	3	(例) 入射角より屈折角のほうが大きくなるように、光が屈折して進むから。				35.6	49.9	14.5	
	4					20.2	74.4	5.4	
	5	鏡の上下の長さ		101 cm		2.3	91.2	6.5	
鏡の下端の床からの高さ		57 cm							
3	1	無セキツイ動物				88.9	9.8	1.3	
	2	ア				63.8	36.2	0	
	3	(例) カエル				50.1	46.3	3.6	
	4	(例) 外界の温度が変化しても、体温をほぼ一定に保つことができる動物。				64.1	33.3	2.6	
	5	エ				54.3	45.5	0.2	
	6	進化				84.0	12.7	3.3	

問題	正	答	正答率	誤答率	無答率
4	1	BaSO ₄	14.7	73.1	12.2
	2	ウ	92.8	6.4	0.8
	3	水素	47.3	47.0	5.7
	4	(例) 酸性の原因の水素イオンと、アルカリ性の原因の水酸化物イオンが結びつき、互いの性質を打ち消し合い、水を生じる反応。	15.5	57.1	19.4
			部分点	8.0	
5	<p>白い沈殿の質量 [g]</p> <p>水酸化バリウム水溶液の体積 [cm³]</p>		12.1	80.4	7.5
5	1	(1) C → A → D → B	66.7	33.3	0
		(2) ア, ウ	13.4	86.3	0.3
		(3) 停滞前線	47.6	48.3	4.1
	2	(1) イ	34.6	65.1	0.3
		(2) (例) 大陸からの季節風が、海の上を通過するときに大量の水蒸気を含むようになり、山を越えるときに雪や雨となって水蒸気を失うから。	3.6	49.9	14.5
		部分点	32.0		

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した387人分の答案を対象として算出した。

英語

1 出題のねらい

「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域について、基礎的・基本的な知識・理解と、英語によるコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

- (1) 「聞くこと」については、放送される初歩的な英語を聞き、その概要や要点を把握する力と問いなどに適切に応答する力をみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、まとまりのある英文を読んで、その内容を理解し、概要や要点を的確に読み取る力をみるものとした。
- (3) 「書くこと」については、基本的な語を正しく書く力、初歩的な英語を用いて伝えたいことを正しく表現する力、考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書く力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は 23.6 点で、昨年度より 1.1 点下がった。聞いたり読んだりして概要や要点をつかむことについては一定の力がみとめられるが、基本的な文法事項の定着や、場面に応じて適切に表現することについては課題がある。また、聞いたり読んだりしたことに対して自分の考えを英語で伝えるなど、技能を統合的に活用する力を問う問題は全体的に正答率が低い。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	23.6	24.7	27.1	25.8	26.8	25.4	27.7

(2) 正答率の推移

年 度		R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
理解の能力	聞くこと	57.6	67.6	65.4	74.2	68.4	74.9	72.5
	読むこと	52.6	59.8	60.5	53.7	58.8	56.5	63.2
表現の能力	書くこと	27.4	22.5	33.3	30.6	30.5	24.8	35.3

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

☞① 基本的な文法事項の理解に基づき、適切に表現する力を付けさせること。【4】3(1),(2)など

文脈や場面から状況を判断し、基本的な文法事項の理解に基づいて、適切に表現する問題の正答率が低い。文法をコミュニケーションを支えるものとして捉え、実際の場면을想定した言語活動において、生徒の文法に対する気付きを促す指導を十分に行うことが求められる。また、場面や状況に応じて、表現する内容や選択する表現等が異なるため、柔軟で適切な表現ができるように、練習の段階に工夫が必要である。

☞② 技能を統合的に活用する力を付けさせること。【1】E, 【4】4

聞いたり読んだりして内容を正しく把握し、適切に応じることに課題がある。英語で聞かれる質問に対して自分の意見を記述する問題では、問いを正しく聞き取ることや、聞いた情報を活用して考えなどを伝えることに課題がある。メールを読み、返信を書く問題では、問いを正しく読み取ることや、自分の考えを組み立てること、正しい表現で考えを表すことができていない解答が多い。授業では、聞いたり読んだりしたことに対して、自分の考えを英語で伝える活動に加えて、やり取りにおいてわからないことや曖昧なことをそのままにせず、必要な情報を得るために問いかけをする力などを身に付けさせる指導を、繰り返し行うことが必要である。

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率	
1	A	No. 1	イ	77.8	22.2	0
		No. 2	ウ	50.9	49.1	0
	B	No. 1	ウ	36.2	63.8	0
		No. 2	ア	49.4	50.6	0
	C	No. 1	ウ	54.5	45.5	0
		No. 2	エ	63.6	36.4	0
	D	No. 1	エ	17.8	81.9	0.3
		No. 2	ア	80.4	19.4	0.2
		No. 3	イ	91.5	8.5	0
		No. 4	ウ	78.6	21.4	0
E	(例) I like reading books.	32.6	38.5	8.8		
部分点 20.1						
2	1	エ	45.7	54.0	0.3	
	2	(1)	ウ	83.7	16.0	0.3
		(2)	イ	39.5	60.2	0.3
		(3)	イ	39.0	60.2	0.8
	3	エ	47.6	51.9	0.5	
3	1	イ	42.6	57.1	0.3	
	2	エ	68.2	31.5	0.3	
	3	ア	48.8	49.9	1.3	
	4	ウ	57.9	41.1	1.0	
4	1	(1)	know when he will arrive	45.7	51.9	0.8
				部分点 1.6		
	(2)	you want him to call	21.2	77.5	0.5	
			部分点 0.8			
	2	(1)	subject	48.8	43.4	5.7
				部分点 2.1		
	(2)	usually	47.1	43.3	9.6	
			(1)	(例) Where is it?	20.7	49.9
	部分点 8.5					
	(2)	(例) If you join the show, you can get a pen.	7.5	47.0	28.7	
			部分点 16.8			
	4	(例) My favorite thing is baseball club. We practice three days a week after school. We visit other schools and have a baseball game several times a year.	0.8	16.0	15.5	
部分点 67.7						

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した387人分の答案を対象として算出した。

高知県教育委員会事務局高等学校課

高知市丸ノ内1-7-52

電話 (088)821-4907

FAX (088)821-4547